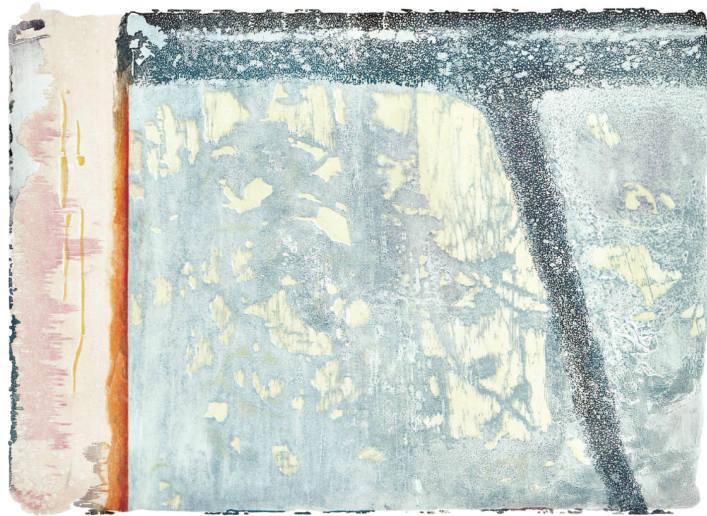


李 玲瓏
LI Linglong



青い空想の部屋に
水性顔料、水性木版、和紙



Evanescence
水性顔料、水性木版、和紙

影のように沈黙、揺れる木漏れ日のように笑う

過去の日々の中、私は自分の手から何かを残そうとしている。ほんの些細なことで、淡くて柔らかい日常が、末々にこれ以上ないほど懐かしくなると、私は確信しているからである。

思いがけずに「あなた」に出会って、また思いがけずに「あなた」とすれ違った。もう一度この場所に来た時、もう「あなた」に会えないことに気づいた。夕暮れの部屋に落ちる光、車窓の外に夢のような木の影、さらに遠くには自在な雲。それらはすべて「あなた」でありうる。

私にとって、生活の意義は断片から断片へと繋がっていき、いつでも歩みを止められ、自然の美しさとひとつに溶け合うのである。生活を記録にあたって、まるで山の中でたまに聞こえるかすかな焚き火音のように思えた。或いはちっぽけなことかもしれない。

その為、触れるものがすべてぼんやりとなっていた。絵を描いている時は写真として作る一方で、写真を撮る時、創作を絵だと思っている。両者の関係は曖昧で相容れるもだと考えている。例えば、私の目の中に、作品の中の黒のようにいくつかの灰色を混ぜていて、光であっても必ず曇っていることを隠しているのではないだろうか。これは私のずっと追求する美かも知れなくて、私の見たい曖昧な世界は構成した。

私は「些細な生活」についての再考をテーマとして、日常にあるありふれた木漏れ日をモチーフに、伝統的な版画である水性木版画技法で制作している。版画として刷られた光も、反復可能な形となって物質化し、取り戻せない瞬間の翳りとなって、見る人々の目の前に現れて、複数の時間の層を重ねているように見せたいと思う。自然から生まれた版木、次いで和紙の繊維素材と水性絵具が作品の重要な部分を成していると同様に、絵具は自分自身の皮膚の紋様をも染めている。その上、沈んでいる私は徐々に自然と一緒に、純粹に蘇らせた。

生活とはそういうものである。旅の途中、誰も尋ねずの土地には霧雨を受け止めた青葉が、淡く輝いている。このすべての光景はすでに客観的な光景ではなく、広い叙事の世界で私の心が揺さぶられた眇々たる存在という。